

簾舞通行屋緑地には今年も大勢の人が集まり、秋のお祭りを楽しみました。



▲お茶で一休み



▲いらっしゃい!



▲みすまい音頭でにぎやかに♪

八剣山果樹園と周辺農家で行われた八剣山収穫祭。熱気球や乗馬体験、丸太切り大会と、自然を満喫した一日となりました。もちろん、とれたての野菜や果物もたっぷり味わいました。



▲優勝目指してがんばるぞ!



▲お馬の背中はいい気持ち



▲熱気球も人気

見る・知る・遊ぶ  
ふるさと 13

本願寺街道

本願寺街道は、その名称から推察するとおり東本願寺により開削された道路で、現在の国道230号の原形となりました。明治二年九月、太政官から東本願寺に対し道路開削の許可が下り、当時十九歳であった大谷光瑩現如上人が翌三年二月、百数十人の随員を連れ京都を出発。七月には函館に到着し、道路の開削に取り掛かりました。

工事でした。そして、明治四年十月、わずか一年三カ月という工事期間で、全長約百三キロメートル、幅約二・七メートルの当時としては非常に広い道路が完成。総工費は一万八千五百七両余り（現在の二億円以上）、作業人員は延べ五万五千人余りになりました。

完成から百三十数年の時がたちましたが、当時の面影の一部を簾舞でのぶことができます。簾舞三条二丁目から三丁目にかけての通称「へび坂」と、簾舞中学校の西側にある二星岱山麓の南側から簾舞川の二星橋に至るまでの二本の道です。地元保存会の人たちの手によって管理されており、簾舞や平岸には記念碑などがあります。

●碑などの所在地  
・本願寺道路終点碑（豊平区平岸二十一）  
・本願寺街道跡碑



▶南区簾舞二星代

・現如上人之像（中山峠頂上）  
・東本願寺街道起点碑（伊達市長和）



▲現在は私道である「へび坂」

